

議 事 録

令和4年10月7日

件 名 令和4年度 第1回松本市文化芸術振興審議会について

日 時 令和4年9月16日(金)
14:00 ~ 15:00 場 所 大手事務所6階 会議室A

出席者 松本市文化芸術振興審議会委員(4名): 笹本正治、宮嶋弘樹、山根宏文、辻本敬太
事務局: 小西部長、村山課長、公保課長補佐、報告者(北山主事)
欠席者: 滝沢一以、倉澤聡

【趣旨・結果等】

標記会議の開催結果について、下記のとおり報告するものです。

記

1 開会

事務局: 小西部長挨拶

(事務局)開会にあたり、笹本会長からご挨拶よろしくお願い致します。

(笹本会長)担当者が部長以下変わってしまった。松本市が文化芸術に関して、どれぐらい意識しているのか、継続性を含めてどのようにしていこうか、しっかりできていないのではないかと感じられました。私達は「松本市文化芸術推進基本計画～未来へつなぐ文化芸術の10年計画」に心を込めて、そして、自分達の時間を削って作ってきました。そういった中で具体的にこれからどう進んでいくのか、私達の中できちんと態度をとっていかなければ、これからどうにもなりません。コロナのことを言い訳にしても仕方がなく、じゃあ、コロナの間に家にこもった人達は文化的に戻ったのか、新しい文化が作られようとしているのか、見ていると、とてもそうは思えない状況です。そうした中で、私達の住んでいる松本市の住民達が誇り豊かに生活しているためにも文化が必要であることを、この委員会の皆様一人一人の心にとめて前に進めて行きたいと思います。

2 副会長の選任

(事務局)副会長でした小松宏江氏につきましては、委員を辞退されました。松本市文化芸術基本条例では、「会長及び副会長は各1名を置き、委員の互選により定める。」とされています。

(笹本会長)副会長をやっていただける方はおられますでしょうか。

おられないので、文化振興課からご提案いただけないでしょうか。

(文化振興課北山主事)宮嶋弘樹様を推薦させていただきます。

(事務局)ただいま、文化振興課から副会長について推薦がありました。ご意見、ご質問はありますか。

(委員一同)異議なし。【拍手】

(事務局)拍手により、了承とさせていただきます。宮嶋様よろしくお願い致します。

それでは、宮嶋副会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

(宮嶋副会長)皆様、おつかれさまです。快く副会長をやらさせていただきます。

まず、この名簿を見ると人数が減ったと感じました。私は、楽都・まつもとプロデュースチームのリーダーをしており、その活動がきっかけでこの委員会に携わらせていただいています。楽都・まつもとライブの前身となる「OMF ウェルカムストリートライブ」が始まった際の事務局が文化振興課の公保課長補佐であり、この会議で一緒にするタイミングで副会長に選んでも

らったのも縁があると思っていますので、微力ながらも引き続き頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3 会議事項

(笹本会長) それでは会議事項(1)「松本市文化芸術推進基本計画の進捗」につきまして、事務局から説明をお願いします。

(1) 松本市文化芸術推進基本計画の進捗について

事務局より進捗状況を説明

(笹本会長) ご説明ありがとうございました。ただ今の進捗状況の説明につきまして、皆様からご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

質問がないようなので私から失礼します。松本市文化芸術推進基本計画の6ページ、7ページを見ればわかりますように、梓川の大宮熱田神社、波田の田村堂、四賀の殿村遺跡などといった松本市の中の大事な文化財があります。先ほどの説明では、ほとんど街中のものばかりで、周辺が一体どうなっているのか私は全く見えません。文化を作るということが、合併したときに一体どうなるのかという視点が欠けているのではないかと思います。今年、梓川の会館では水彩画の関係の展示を行っていました。展示はよくやってくれていたのですが、その博物館自体は放置されたような状態になっています。文化を作るときに中心部だけでいいのかと私は言い続けています。今回の新しくできる博物館においても、地方は一体どうなっているのか、どのように入れているのかと疑問をもっています。先ほどの説明からもそのようなことを強く思いました。実施されていることについては、非常に良いことをやっているのでもう少し進めたいのですが、周辺については、どのような施策を持っているのかが見えない状況です。未来へつなぐ文化芸術の10年計画の中では、古いことを大事にしましょう、同時に全体を文化的にしていきましょうという流れがあるとすると、このまま行くと中心部ばかりに目がいき、周辺部は置いてけぼりになるのかという感想になります。この辺りは、もう少し考えた方が良くはないでしょうか。

(辻本委員) 子供に対してどうしていくかという議論の中で出てくるものは、まずOMF、次に工芸の5月です。日本の子供は先進国の中で一番考察力が低く、政府からの教育指導で考察力をつけるようにと指導内容が変わりました。今年の小学2年生の夏休みの宿題では、「新しい本を何か見つけて、その説明文を書きなさい」というようなものがありました。ただでさえ本を読んでいない子供が書けるわけがなく、今の小学1年生は「エルマーとりゅう」を読めない状況です。文章への感性が薄れている中で字を読まないと何かを見たときにそれを発することが全くできないのではないのでしょうか。これだけのことを市として取り組んでいても、そのまま素通りしてしまう危険があると思います。芸術の関心が高める取り組みを考へるのであれば、もっと読書活動、例えば読みかせボランティアを使って、学校の中でも読み聞かせをするなどのことをもっと取り組まないと、この計画の活動が無意味になるのではないかと思います。

(笹本会長) ものすごく大事なことを指摘していただきました。松本市の場合、子供達に対してどれだけ積極的なことを行っているのか。OMFについては松本に限ったものではなく、周りも全て関わっているものです。では、松本は子供達に何をしあげているのか、親たちはどうなっているのか、つまり、文化的にするといったときに、どのような働きかけを我々がやっていけるのか、基本計画にあるような4つの観点は本当に進行できる状況であるのか問われています。今は携帯文化になっており、文字をきちんと読まない状況に対して、松本市は文字を読ませているのが特徴ですとか、子供達に対する働きかけの部分は何をしているのかが今後

は大切になってくるだろうと思います。さらに付け加えると、親の教育は一体どうなっているのか、子供達がこのようになってきている最大の条件は親達にもあり、松本は決して図書館利用率が低い訳ではないですが、真剣に今の状況を考えるべきではないでしょうか。人が来るようなイベントをすれば良いのではなく、人が来なくてもやれるといったイベントを本来コロナのときに考えなければならなかった。それが、ほとんどされていなかったことを憂慮されているといった辻本さんの意見はとても重要です。まず我々としては、どういったところに問題点があったのか少なくとも確認していきたいと思います。

(山根委員)教育の件について、日本の教育で素晴らしいのが秋田県であり、みんな秋田県の真似をしていまして、その秋田県はフィンランドの真似をしています。今までは小中高で教えられたことを覚えるといった指導要領があったが、フィンランドでは、考える授業、例えば自分達の文化の魅力を事前に調べておいて、授業で討論するといったことをします。教える先生は大変なので、先生はみんな大学院修士を取っており、それでも1割程度しか就職できていないようになっています。最近、ICTを使うように言われていますが、フィンランドは「なぜだろう、何があるだろう」と自分で研究できるようにインターネットを活用されています。このように「なぜだろう」と常に疑問をもって考えることを秋田県も真似しているということが、教育方針を調べていると分かったことです。子供達に自分達の地域の魅力は何かといった授業はできるはずですし、昔の事を見ながら今の生き方などを学ぶことは沢山あります。資料のようなイベントは人が来るからできるけど、人が来ないことも考えられます。また、まちづくりは地域の人達が地域に対して誇りを持っていないと生まれてこない。だから、昔から伝わっているものはただ古いものばかりではなく、今に何か活かせるものもあるので、これを教育に活かしてほしい。

長野県の不登校は全国3番目と変わらない。沖縄県、島根県、長野県となっています。松本と諏訪の不登校率は、国の平均、県の平均を1度も上回ったことがない。諏訪がなぜ良いかという、体験学習やアウトドアを通じて、人との付き合い方などいろんなことを学ばせている。松本が教育の街・3ガク都と呼ばれているのは、旧開智学校があり、その時に進学率が高かっただけです。不登校が多い場所なのに、これだけのことで学都と言っているのは恥ずかしいと思います。それと、急に大人になってから博物館ができたから来いと言われても行くはずがない。金沢市では21世紀美術館ができたときから6千万円使って、小学4年生全員を行かせています。このように教育と連携して活かさない、博物館の将来はないのではないかな。感性豊かな子を育てるといふ形にするのが、松本にとって大事であると思います。

(笹本会長)辻本委員から「現代教育のどこに問題があるのか」とはっきり発言されましたが、長野県歴史館では学校の先生が説明しています。プログラムに沿って説明はできるが、間違いについては説明できません。それは、先生方も自ら「なぜなんだろう」というと疑問に思うような訓練は受けていません。それなのに急にふるさと学習をすることは無理です。そのところの設計も市の方で考えてもらいたい。例えば、山根委員が言ったように誇りを持つということであれば、基本計画14ページでは「3民族」で梓川や波田の御柱と周辺のことが出てくるが、おそらく梓川の子供達は御柱がどれだけ良いかの説明は受けていないと思います。何となく文化的だと使っておいて、イベントを見れば分かるとおりに中央の地域だけです。かつてあった地域の博物館みたいなものは、効率化が徹底となり閉じられてきつつあります。本当にこれで良いのか、本当に文化が出来上がっているのかが今後の課題です。繰り返しになるが、今やっていることに対して悪いとは言いませんが、根本として文化を作っていくときに子供や親の教育が一体どうなっているのかを抜きにしているのは、本来間違いです。

日本の教育制度に関わってくるが、松本らしさを主張するのであれば、文化的な松本らしさを考えていかなければなりません。その際には、心に響く教育の仕方を考える時期にきている

と思います。具体的に何ができるかの問題よりも、今まさにこういう問題があるということを確認する必要があります。

(宮嶋副会長)「松本まちなかアート project」について、いいネーミングだと思いました。街中全体をアートするための全体を総括するような位置付けで、本当にそれができれば良いと思います。街中をどこまで含むのかという問題はあると思いますが。この事業の助言・提案を行う「松本まちなかアート project 推進会議」とはどういった人達で構成されるのでしょうか。(事務局)推進会議のメンバーは松本市で検討し、選出した構成となっています。長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進室のゼネラルコーディネーター、市内「紙館島勇」の代表、「スモト」の代表、浅間温泉の「富士乃湯」の女将、市外から大町市の染色職人、女性の方となっています。

(宮嶋副会長)先ほどから市街ではない合併した地域をどう考えているのかといった意見がありました。違う見方として、まずは人の集まる所で取り組みを始めないと、郊外にも広げられないという意味合いだと受けとっています。例えば、9月23日にある「松本街なか大道芸&ジャズフェスティバル」に行きたいと思っているが、街中でイベントをやる場合だと子連れだと市街地に行くのは大変で、交通手段も電車で行こうとしても松本だと駅から遠い人が大半であり、車で行こうとすると街なかだと駐車場が限られています。このように考えていると億劫になったりする。こういったイベントが郊外で行われるとありがたいと思いました。いずれにせよ子供達にいろんな刺激を与える機会は大事だと思います。その機会が街なかに偏りがちになっているので、リソース等の問題はあるが、いろんな場所で実施できればと思います。

(笹本会長)梓川村や波田町の人達に合併して、何がいいことがあるのか問われたら私達は何が答えられるでしょう。今まで地域にあった博物館は地域性が強いだけに松本市全体から見たらダメになっています。地域を超えとなったときには、何が文化振興になっているのかということ、どこかで考えていかなければなりません。今、宮嶋副会長が言ったような、まずは人口の集まっている場所で行っていくパターンがあります。その一方、今まで中心となる役場があったような所が寂れてしまうということは良いことだと私は思いません。文化振興策とはなんだろうというときに、人が集まって賑やかであれば、それが文化振興策であるというのは、私は思いません。私達は、文化芸術基本計画で目指していきたいことをみんなでまとめたが、具体的には市は一体どうなっているのかが重要となっています。決められたままではどうしようもないため、我々は評価まで行うこととしました。今まで出てきた教育の問題や中央でない場所の問題等、いろんな課題があるが今後の評価に関わってくるため、よく考えておいてほしい。また、私達にとっては毎年具体的な進捗状況が行ったことだけでなく、それが具体的にどうなのか見えるようにしてほしい。例えば、いくら費用を掛けた結果、市民の人達は満足しているのかどうかを含めて少し考えていくべきではないか。私は以前、文化芸術基本計画を作成する際に、白と黒の文字ばかりで文化的ではないと指摘し、多くの方から写真を提供してもらって作ったりしたが、私達としては作りっぱなしではなく評価するところまで協力しましょうということとなりました。そうすると、市側も先ほど出てきた課題に対して、年度末に開催した際に、「ここまでは実施した。来年度はこうしていきたい。」というような方向性を示すことが、委員の皆様に対する大事な点です。

他に言い忘れた、これだけは言っておきたいことはありますか。

(山根委員)先日、長野市に行って中心市街地の活性化についてクラフトフェアは、はじめ郊外でやるようにずっと言われてきたが、その意見を受け付けずにあがたの森で実施し、特に中町はハンドクラフトの店舗が多いので、流れによって中心市街地を活性化させようと成功しました。中町で売上が一番上がるのはクラフトフェアのときであり、経済普及効果を計算すると8億から13億です。また、経済普及効果が一番多いのはOMFです。これらについて2つ考え

方があり、中心地が活性化することにより郊外から流れていくこと、音楽が本物に触れる機会があるということ。OMFを実施することで松本は、吹奏楽のレベルがすごく上がったと言われています。それはOMFでのクリニックで同じ楽器がどんな音色なのかプロが来て教えてくれる機会があり、自分が演奏している楽器の本物の音色に感動して子供達はやる気が出ているからで、これは市内の小学校、中学校では教えてくれないことです。また、学校の先生では、文化芸術をどう活かせるかをはっきりと教えられないでしょう。だから、日本の小学校の教員になるのにも大学院を出ることが求められています。できれば、教育と一貫となりながら文化の教え方を分かりやすくしていくべきですが、ただ学校の先生はマニュアルを作って、それで教えているだけです。私は、高校教諭の更新講座を行うが、3割ぐらいはマニュアルをもらいに来たと言ってきました。新しく「観光」が授業に入りましたが、「観光」というのは文化芸術と自然の進行をどうするかというものであるため地域によって様々です。それなのにマニュアルがないと教えられないと平気で言われます。古いそのままより、今は学ぶことがいっぱいありますので、文化芸術を併せてどう教えるかが重要であり、そうすると地域に対して誇りとか関心を持つようになります。先生方には、講習をして文化芸術を分かりやすく教えていかなければなりません。博物館で勤務している私の教え子は、子供達がどんなキーワードに興味があるのか探りながら説明をしています。そのように堅苦しい文化ではなく、配慮して教えていくようにすればどうだろうか。

(笹本会長) ここで問題なのは、縦行政ではなく横の繋がりが重要です。今までの話では、教育委員会と文化振興課がどう結びつくかが直結してきます。例えば、各小中学校に学芸員がどれだけ出かけているか、新しく博物館が出来たときに市が交通費をみてるのか。長野県立歴史館では、来れない理由として、交通費がかかるからです。このようなサービスが変わることを含めて、全体としての文化振興策があがってくることを期待しています。そのためには、目立つことだけではなく、ここが一番基本のことを行っていると言えるように進めてほしい。

(辻本委員) 子供達が本を読まなくなったということについて、図書館司書と学校司書の方が各学年に読んでほしい本というプリントを配っています。本を読めといったところで、莫大な数がある中で何を読んだらいいのかわからないときに、このサービスはとても大切です。また、松本市ファーストブックという本を配るイベントがあり、その際に図書館司書の方が読み聞かせをするが上手とは言えなかった。きちんとした読み聞かせはとても楽しいものです。飯田市では、中学校に月1回に読み聞かせボランティアを行っています。このような文化芸術の会議の場で読書活動を大切であるという議題は流されるのが当たり前となっています。もう少し会議の内容に組み込めれば子供のためになると思います。OMFも立派であるが、もっと根や葉の部分でしっかりやっているということがガク都としてしっかり言えるのではないのでしょうか。

(笹本会長) 私は全てのことをやれと言うわけではなく、松本はどこに特徴があるのか考えなければなりません。今までだと音楽が中心となっていましたが、辻本委員が言われているのは、基本的な部分である本を読む、文を読む文化を作ることです。文字を読むことについて、教育委員会などを交えて市は考えなければならない時期です。私が上田市で防災の講演をした際に、読み聞かせグループの演劇に防災の話を変えていたため見とれてしまった。素晴らしい経験と作り方によって全く違うものでした。今日の辻本委員が発言した内容についても目を向けていきたいと思っています。

(2) 今後の展開について

ア 令和4年度第2回文化芸術振興審議会を開催する。(令和5年3月頃開催予定)

イ アンケート調査：令和7年度、令和11年度

ウ 計画の評価：中間評価（令和7年度）、最終評価(令和12年度)

3 その他

委員の増員について

幅広い意見の集約と深い議論が達成されるように委員が更新される令和5年6月までに増員することとなった。なお、構成委員が全員男性であるため、女性を選出する。

【指示事項】